

「神の御前のきよさと愛」ヤコブ1：26～27 堀田修一 21・3・7

I 先行する神の恵み。神が主への信仰を与えて下さった恵み。自分の舌、言葉を制御する御霊の実、自制を与えて下さる恵み。自分の心を欺かず、正直に自分の罪を神に告白でき、赦しをいただける恵み。神の御前で、きよく汚れのない心を、主の十字架の血と御聖霊が与えて下さる恵み。

II 「自分は宗教心にあついと思っても、自分の舌を制御せず、自分の心を欺いているなら、そのような宗教はむなししいものです」：26。

1. 「むなししい」とは「内容のない、無益な、本当のものでない、愚かな」の意。ここでの宗教とは、礼拝の形式や信仰の外に現れた形式の事。「自分は宗教心にあついと思っている」、思い込んでいる。つまり、外面的な信仰の形式のすべてを守り、自分は熱心と自分で評価している。

① 高ぶる熱心は、他の人をさばく、批判することをしたり、他の人の弱さに同情できなくなってしまう。気を付けたい。

② 神の喜ばれる熱心もある。黙3：15。主にある熱い心に周りの人々もチャレンジを受け励まされる。そして主にあって熱い人は高ぶらず、他人をさばかず、思いやる。なぜ？それは、真実な熱心の動機と源は、恵み深い神への感謝と愛（Iコリ13：1～7）だから。

2. 「自分の舌を制御せず」＝制御しない、抑制しない。信仰に熱心と思っていなくても、日々の生活の中で、うそや他人の悪口ばかり言っているなら空しい。形式すべてが無意味なのではない。しかし、信仰の中身（聖さ、愛、誠実）が失われる時、それは空虚なものとなる。自分の舌を悪口、陰口、批判、中傷に用いないように祈り気を付けよう。むしろ神をあがめること、また人に感謝する事、人を慰め励ます事に自分の舌、口を用いたい。※失敗の多い私への主の恵みの証し。もし主を信じていないなら？もっと、うそや悪口の多い人生。今も失敗はあるが、主が自制と恵みの言葉を下さる。

3. 「自分の心を欺いているなら」。宗教（信心、神奉仕）は、単に言葉のみにあるのではなく、私たちの心の事柄である。なぜなら、心によって主を信じ、心に神の愛が与えられる。自分の心を欺くとは、自分の心に、自分の罪が示されても、それを悔いて改めようとせず、そのまま罪を犯しながら、自分は熱心だと思い込み、外面的に熱心な振りをする事。ごまかそうとしたサウル王へのサムエルのことばは私たちにも必要な御言葉。「主は、全焼のささげ物やいけにえを、主の御声に聞き従うことほどに喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり」（Iサム15：22）。偽善、貪欲、嘘、自分のメンツを守ろうとすることから聖められるように祈りたい。

III 「父である神の御前できよく汚れのない宗教とは、孤児ややもめたちが困っているときに世話をし、この世の汚れに染まらないように自分を守ることです」：27。

1. 「父なる神の御前で」→神ではなく、人前や人目を第一にしていく時、神への真実な信仰や礼拝はゆがめられ腐って行く。人に良く見られようとする仮面の信仰となる。それから守られるのは、神はすべてを見ていて下さる、聖めて下さるという信仰である。私たちは、神の御前で生活しているという自覚である。「人は、うわべを見るが、主は心を見る」（Iサムエル16：7）。神の御前に生きる人は、神から愛をいただいて、人への礼儀も忘れない。愛は「礼儀に反することをせず」（Iコリ13：5）。

2. 「孤児ややもめたちが困っているときに世話をし」。①本物の信仰は、真の神への礼拝を重んじると同時に、真実な愛の実践を大切に。「山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、何の値うちもありません」(I コリ13:2)。主が最後の審判の日について語られた御言葉→「あなたがたは、わたしが空腹であったときに食べ物を与え、渇いていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、わたしが裸のときに服を着せ、病気をしたときに見舞い(今はコロナ感染防止の為に制限があるが)、牢にいたときに訪ねてくれたからです。…あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです」(マタ25:35, 36, 40)。主は、私たちの愛の行為をご覧になり報いて下さる。②どんな人を助けるべきか? i 「孤児ややもめ」。助けを必要としている人々。主は、いつもこの世の弱い立場の人々を差別せず大切に思い助けられた。今も愛しておられる。③どんな時に助けるべきか? 「困っているときに」。福祉や私たちの援助において非常に大切な事は、本当に困り、助けを必要とする人々を神の愛をいただいてお助けすることである。自己満足ではなく、真に相手の益となる的を得た愛を示せるように祈りたい。「あなたがたの愛が真の知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、あなたがたが、真にすぐれたものを見分けることができますように」(ピリ1:9, 10)。※神の愛の助けの証し。i 神は、私が自分の罪で滅びに向かい困っている時、主の十字架で救い、罪の赦しと永遠の命を下された。ii 人生の試練の中で、私が困っている時、神は、私の心を慰め励まして下さる。iii これまでの人生の中で、私が困っている時、多くの人々を通して助けて下さった。iv 私には愛がないが、困っている私に神が救いと愛(ある時には多くの人々を通して)を与えて下さったおかげで、私にも愛が与えられ、ある困っている人々に愛を示すように導かれた。すべて、私には誇るべき事はなく、すべては、神の愛、恵みから生まれた愛の行為である。

3. 「この世の汚れに染まらないように自分をきよく守ることで」: 27。私たちが、愛と聖さに満ちた主を信じる時、主は私たちの心に住まれ、私たちは、愛と聖い主の姿に変えられ続ける。と同時に、主の再臨の日までこの世の不品行や不正から自分をきよく守ることは、私たちの力では難しい。しかし、全能の神は私たちを助け、恵みと力を下さる。※証し: もし私が主を信じていなかったら、もっと世の汚れに染まった人生を送っていた。今でも私は、完全ではない。主のご性質に変えられる途上の者である。「私は待ち望む。主の恵みを。」 実に、私たちは滅び失せなかった。主のあわれみが尽きないからだ。哀歌3:21, 22→①まず自分の罪を認め主を信じる時、聖霊による新生、新しい性質(愛と聖)が与えられる。ヨハネ3:5。②主を信じ洗礼を受けても、すぐに完全になる人はいない。日々、自分の罪を告白し、神の赦しときよめを受け続ける。「私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての不義からきよめてくださいます」Iヨハ1:9。「御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます」1:7。③神が造られた大切な命、神が与えられた大切な性を御言葉から学び、神が大切に造られた命、性を私たちも大切にし、きよく保つ。結婚前の性の関係を祈りつつ避ける。私たち大人も、子供たちも、世の誘惑から守られ、神が造り与えられた命、体、性を大切にしきよく保ち、神の栄光を現わすことができますように心から共に祈り合いたい。

「あなたこそ 私の内臓を造り、母の胎の内で私を組み立てられた方です」詩篇139:13。「私を胎内で造られた方は、彼らをも造られたのではないか」ヨブ31:15。「男はその父と母を離れ、妻と結び合い、ふたりは一体となるのである」創世記2:24→結び合う結婚の後に一体となる。そこに神の秩序と祝福がある。「不品行を避けなさい…あなたがたのからだは…神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではない…代価(主の十字架の血)を払って買い取られた(滅びから神のものとして買い戻された)のです」Iコリント6:18~20。神の創造と贖いと聖霊の聖なる助けを感謝します。祈り: 私達に、神の御前のきよさと困っている人に愛を示す心と実践を与えて下さい。